

郷音

~ KOURU ~

流

香光荘蔵

燃えるような赤い夕日が、山肌の色を紫に染め上げることから『紫峰』とも呼ばれる筑波山。877mでありながら、その色の美しさから、百名山のひとつに数えられる。

紫峰という名を聞く時、染香人という言葉が思い出される。染香人とはお念仏をよろこぶ者を指すが、思えばいつごろから私は念仏申す身となったのだろう。出会いや別れ、先人たちの念仏申す姿を拝見する中、いつからかその温もりがこの身に染み入り、育て育まれたのだと思う。夕日に照らされ筑波山の色が変わる姿は、まるで娑婆を生きる私が私のままで願いに満たされてゆく姿を見ているようだ。

ひたちなか市清心寺増田廣樹



ひと特別号

中村元 東方研究所 専任研究員 × 石岡市 大覚寺 副住職

板敷 真純 さん

浄土真宗について様々な研究をされてこられた

大覚寺副住職の板敷真純さんにお話を伺いました。

常陸国(茨城)における親鸞聖人について教えてください

古くより親鸞聖人の関東でのご布教のイメージは「荒れ果てた関東の地で大変なご苦勞をされながら文字も読めない人々にご教化をされた孤高のお方」というものです。しかし現在では「全国屈指のお米の産地である肥沃な常陸国で、法然聖人の影響を受けられた方の庇護の元、ご教化をされた」と変わってきています。

ですから親鸞聖人がご苦勞されたのは、荒地や孤立ではなく、常陸国が名神大社(とても大きな神社)を7つも抱えるなど多数の信仰が在来する地であった、ということだと思います。宗教といえば「儀礼において現世利益を獲ること」という価値観が強い地で、不請の安心を頂くと、という本当の利益を説くことは困難を極められたことでしょう。時に、疎まれたり、打ち負かさそうとする人も来られたと思われませんが、その方に対して対立されるのではなく柔和に接され、「いかなる者も摂め取る阿弥陀如来の他力のみ教え」を説き広められました。

親鸞聖人ご誕生 850 年・立教開宗 800 年の

節目の年ですが、所感を教えてください

現在、築地本願寺の企画の一環として御旧跡めぐりのガイドを承っています。

「親鸞聖人の食生活」等、そのお人柄についてのご質問が多いですが、資料がかなり少ないため、お答えするのに苦慮しています。しかし90歳



Profile

いたじき ますみ
板敷 真純
趣味・特技:インドカレー作り
好きなもの:カレー

までご存命であったことや、弟子たちの著作には肉食容認の經典を引用している点が見られることなどから完全な菜食ではなかったとは思われます。だからこそ、他のいのちの犠牲の上にか生きることのできない自らの罪業を悲嘆され、同時に阿弥陀仏の本願力による救済を喜ばれたのだと受け止めています。その想いが今日まで受け継がれていることは尊いことです。

また、真宗寺院が800年にわたり継承されてきたのは坊守(女性)の活動が不可欠です。特に住職不在時には、寺院後継者の指名の関与や住職職務の代行並びに門信徒教化が確認されています。妻帯を公に貫かれた宗祖のお姿や性別の違いを問題としないみ教えの影響により、浄土真宗は中世より女性が表に出られる宗派であったと考えられます。だからこそ住職が不在となった場合でも、絶えずに受け継がれた寺院が多いものと思います。

春には築地本願寺(4月26日〜29日・茨城東組担当)27日)、また新水戸市民会館(左記参照)で慶讃法要が勤まりますので、どうぞお参りされてください。

聞き手:水戸市 安楽寺 澤田唯

Joint Celebration



June 22 2024

1:30PM – 4:30PM

**MITO CITY CIVIC CENTER
GLOBIS Hall**

ご縁を廣げ、
お念仏とともに

～茨城の念仏道場を求めて～

たなかきんせいしんじ 田中山 清心寺

平成二十四年二月



ひたちなか市館山の高台には、浄土真宗の寺院が7カ寺隣り合っている。ひたちなか海浜鉄道的那珂湊駅方面から、石階段を上がりきったところまでひと際目を引くのが、清心寺本堂の白壁である。外観は伝統的な建築様式ではないモダンな造りで、本堂までの整備された参道はとても洗練されている。

清心寺は慶長元(1596)年に藤原俊秀によって、湊村田中(現ひたちなか市栄町 那珂湊反射炉跡付近)に一寺を建立されたことから始まる。その後、嘉永3(1850)年に天狗党の乱によって、同寺は一時消失してしまうが、明治17(1884)年にご門徒の手によって再興され、以後現在に至るまで住職とご門徒が手を携えて護って来た。

現住職の増田廣樹さんは、去年継職されたばかりで17代目。現在は、西本願寺・築地本願寺をはじめ、様々な寺院の法座に出講している。「室町時代から続く清心寺の歴史を考えたとき、色々な方の思いがあつて、今お寺があると改めて感じました。今回の継職の重みがより一層増したように思いました。どんなお寺を目指すかは、



私の中でまだはつきりしていないのですが、まずはお念仏を大切にしてみっと喜ばせて頂こう、そう思っていく僧侶であること。そして、たくさんの方にお育てを頂きながら、自分なりに考えて歩いていく中で、おのずと目指すべきお寺のかたちが決まってくるのかなと思っています。」と語る。

住職は布教には2つのかたちがあると言う。一つは実際に寺院などでお念仏の教えを話して聞いてもらうもの。そしてもう一つはお念仏の教えに裏付けされた社会貢献である。今住職が取り組んでいるのは、僧侶として介護施設に訪問して、入居者と交流する、看護と仏教が連携していく活動だ。「介護施設に行つて、お話をしたり、相談に乗ったり、法要を勤めることもあります。看護師と僧侶が連携して社会貢献をしていくこの活動について、先日論文を出すことになりました。今は種を蒔いている段階ですので、これからこの活動が茨城県内で広がっていくとれたら。」と力を込める。

聞き手：行方市 豊安寺 板敷諒

茨城東組広報誌『響流』第十七号
二〇二四年三月発行
発行／浄土真宗本願寺派茨城東組実践運動
〒三一三〇一二三
常陸太田市久米町二〇一 正念寺内
編集／茨城東組 青年僧侶の会